

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

ペインクリニック (2013.02) 34巻2号:195～204.

【痛みの治療薬-臨床例に基づいた処方の実際-】
痛みに対する漢方薬の使い方

間宮 敬子

痛みに対する漢方薬の使い方

間宮 敬子

旭川医科大学 麻酔科蘇生科

要 旨

ペインクリニックで知っておくべき東洋医学的病態把握法には、八綱、気血水、五臓六腑、六病位がある。東洋医学的診察法には、望診、聞診、問診、切診があり、日常の診療の中で必要に応じていねいに行う必要がある。ペインクリニックで、漢方薬が良い適応となる頭痛、腰痛、膝関節痛、帯状疱疹関連痛、疼痛性障害を取り上げた。それぞれの疾患に対し、東洋医学的な病態把握法と診察法で証を決め、漢方薬を選択し、治療を行っていくことが大切である。

(ペインクリニック 34:195-204, 2013)

キーワード：漢方薬、痛み、証

はじめに

漢方治療は、西洋医学的な治療で症状が改善しない場合、副作用が現れた場合、合併症などで西洋医学的な治療ができない場合、西洋医学的な治療を補助したい場合、患者が漢方治療を望んだ場合などに適応となる。

漢方治療では、東洋医学的な理論と診察法により証を決め、治療を行う。このため、西洋医学的に異常が認められなかった患者でも、患者の訴えがあれば漢方治療は可能となる。漢方治療を行うにあたっては、この理論と診察法を理解することが必要となる。

1. ペインクリニックにおける漢方治療の適応

一般的に、慢性の痛みは漢方治療の良い適応であり、その中でも冷えると症状が悪化するというものに効果が大きい¹⁾。また、高齢者や胃

腸虚弱な人には漢方薬を第一選択としてよい。一方で、明らかに器質的な問題がある時は、漢方治療の適応は少ない。ここでは、ペインクリニックで知っておくべき東洋医学的考え方と、ペインクリニックの対象疾患の中で漢方薬が良い適応となる疾患を取り上げ、漢方薬の選択方法を、症例を紹介しながら説明する。

2. 証を考える

証とは、漢方独特の概念で、患者の体質、病気の表れ方、体内での病気の位置、進行状況に基づいて行う診断と治療方針が一体となったものである。東洋医学的な病態把握法と診察法を駆使して証を決めていく。初心者には、患者の証を考えながら漢方薬を処方することは敷居が高く見えるが、これを実践することにより、同じ病気であっても患者によって違う漢方薬を選択することができ(同病異治)、オーダーメイドの医療を供給することが可能となる。

〈Special Article〉 How to use analgesics in daily clinical practice
How we use the Kampo medicine (Japanese herb) for pain patients

Keiko Mamiya

Department of Anesthesiology and Critical Care Medicine, Asahikawa Medical University

3. 東洋医学的病態把握法

東洋医学的病態把握法には、八綱、気血水、五臓六腑、六病位がある。

1) 八 綱

東洋医学では、陰陽、虚実、表裏、寒熱という4種類8項目の表現法を使用する。虚証は痩せて虚弱な人で寝汗をかく人が多い。実証は体力が充実し、たくましい人である。表証は病邪が体表付近にある状態、それに対して裏証は病邪が深部へと侵入した状態である。他覚的に手足が冷たい人、体温が高くても寒がっている人は寒証である。熱証は暑がり、患部や体の一部が熱っぽい人、冬でも冷水を好む人である。陰証は虚、裏、寒の要素が強く、新陳代謝の低下している人、陽証は実、表、熱の要素が強く、新陳代謝が亢進している人である。ここでは、虚実と寒熱はおさえておきたい。

2) 気 血 水

「気」は生活活動を営む根源的なエネルギーで、生体内を隈なく巡っている。気の異常には気虚、気鬱、気逆がある。気虚は気の量が不足している状態で、気の産生が低下していたり、気の消費が多く、生命体としての活動が低下している状態である。気鬱は気の循環に停滞をきたした病態で、患者は抑うつ傾向にある。気逆は、普通は上半身から下半身へ巡るべき気が上方へ向かった状態のことである。

「血」は、脈管の中を気の働きによって巡行する。血は全身を巡り、身体に必要な栄養をもたらす。血の異常には、血虚、瘀血がある。血虚は生体を支えるための血の量に不足のある病態で、血を十分に作り出せないか血の消耗が多い場合を示す。瘀血は血の流れが途絶した場合を示し、西洋医学的には微小循環不全の状態と考えられる。

「水」は、全身を巡る無色の液体で、水の異常には水滞がある。水滞とは水が身体の一定の部位に停滞した病態である。

ペインクリニックでは、気血水の概念は理解しておくとうい。

3) 五 臓

肝、心、脾、肺、腎がある。西洋医学的な臓器の考え方は別の概念である。肝は精神の安定状態や筋の緊張状態を現す。心は意識を清明に保ち、血を循環させる。脾は、食物を生体エネルギーである気に転化させて各部位へ運搬する。肺は呼吸症状、皮膚症状を調節する。腎は気力、精力を主る。ペインクリニックの漢方診察ではまず腎を理解する必要がある。

4) 六 病 位

東洋医学における疾病のステージ分類である。病因に関係なく、闘病反応のパターンによって分類される。ステージは陽と陰に分けられ、それぞれ、太陽病期、少陽病期、陽明病期、太陰病期、少陰病期、厥陰病期がある。

4. 東洋医学的診察法

東洋医学的診察法には、望診、聞診、問診、切診がある。

1) 望 診

患者の動作、容姿、眼光、顔色、皮膚の状態などを観察し、視覚によって患者の情報を得る。東洋医学では舌診も行うが、これも望診に含まれる。

舌診では舌の色、形、苔の色、性状などを観察する。舌を観察することで、舌の血流、胃腸の状態、心の状態、水の偏在を観察することができる。ペインクリニックで重要な舌の所見は、あけつ瘀血の証と水滞の証である。瘀血の証は、舌は暗赤色で舌下静脈の怒張が認められる。水滞の

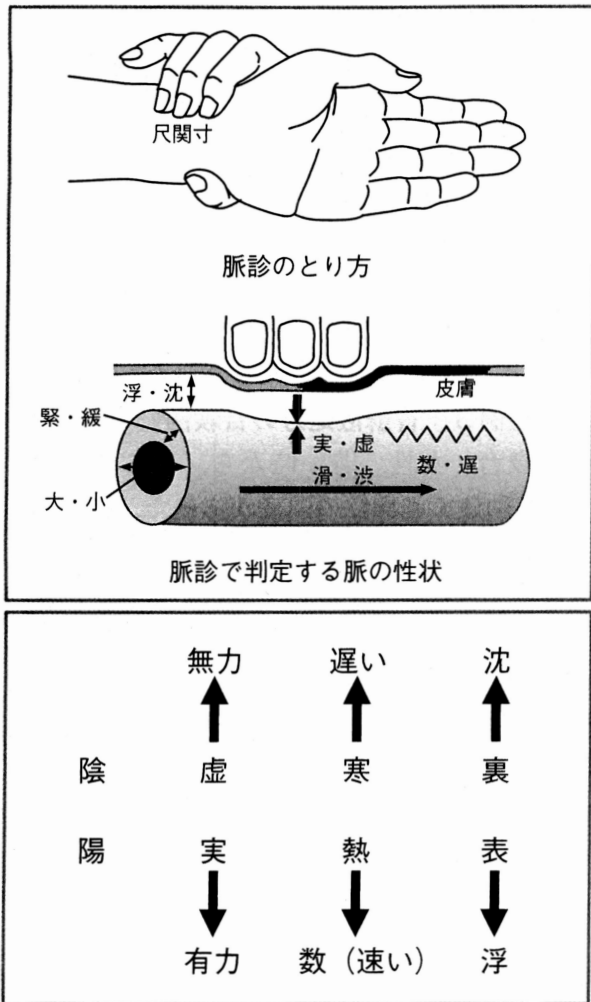


図1 脈診と八綱の関係 (文献2より引用改変)

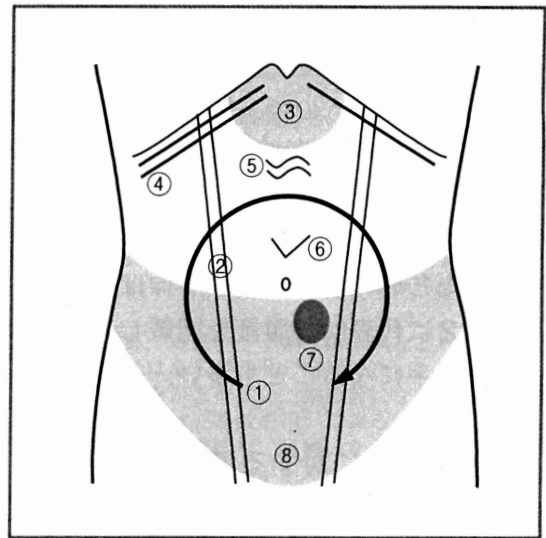


図2 腹診と代表的な腹証 (文献3より引用改変)
 患者は背臥位で、手足を自然に伸ばす。膝は立てない。①腹力：時計回りに腹全体を触り、腹力（腹壁の緊張）をみる。②腹皮拘急：腹直筋の異常な緊張。建中湯類，芍薬含有処方への適応。③心下痞硬：心窩部の抵抗，圧痛。人参含有処方。瀉心湯類への適応。④胸脇苦満：左右の肋骨弓周辺の重圧感，圧迫感。柴胡剤への適応。⑤心下振水音：心窩部を指腹で軽く叩くとチャポチャポという水の揺れ動く音が聞える。胃内振水音ともいう。⑥臍上悸：へその上部の腹部大動脈の拍動亢進。竜骨牡蠣湯類への適応。⑦小腹痛満：へその左右斜め下1～2横指付近の抵抗，圧痛。瘀血の腹症。⑧小腹不仁：下腹部の正中線部に抵抗の抜けた感じがする。八味地黄丸，牛車腎気丸，六味丸への適応。

証は、舌の辺縁に歯痕が認められ、厚い苔や舌の浮腫傾向を見る場合がある。

2) 聞 診

聴覚と嗅覚により得られる情報。患者の話し方、声の明瞭さ、声の張りなどを詳細に検討する。体臭や息の匂いなども重要な情報になる。

3) 問 診

一般的な病歴聴取はもちろん、自覚症状の質問が極めて大切である。想起した証に従って、効率よく的確に問診を行う。

4) 切 診

手で患者の体に触れ、情報を集める。触診、脈診、腹診がある。

① 脈 診

脈診は撓骨動脈の拍動を診る。医師の中指を撓骨茎状突起の内側に密着させ、示指や薬指を中指に添えて置き、三本の指で撓骨動脈の脈の強弱（実，虚），位置（浮，沈）速さ（数，遅），緊張度（緊，緩）などを診る。脈診は必ず左右同時に施行する。一般に脈診は急性病の診断に役立つ。図1に脈診の行い方と脈診と八綱の関係を示した。

② 腹 診

腹診は腹壁の緊張度、腹部の膨満、腹鳴などを手で圧して診るもので、慢性病の治療には不可欠である。西洋医学では臓器を診るため、膝は曲げ腹筋を緩めるが、東洋医学では腹診は膝を伸ばしても本当に健康であればリラックスできるはずだという前提で、膝を伸ばした状態で行う。図2に代表的な腹証を記載した。腹診は処方の決め手になることも多い。

5. 痛み疾患に対する漢方処方

1) 頭 痛

頭痛には一次性頭痛と二次性頭痛がある。二次性頭痛は、脳出血などの器質的変化が原因となる頭痛なので、漢方薬が適応にはなりにくい。したがって、頭痛に対する漢方治療としては、一次性頭痛（片頭痛、群発頭痛、筋緊張性頭痛など）に良い適応となる。

頭痛に効果がある漢方薬には、主なものとして呉茱萸湯、五苓散、半夏白朮天麻湯、釣藤散、当帰逆逆加呉茱萸生姜湯、桂枝人參湯、川芎茶調散、大柴胡湯、香蘇散、桂枝茯苓丸、当帰芍薬散があり、その証や適応を表1に示した。以下に代表的な処方例を紹介する。

① 症例1：大柴胡湯処方自験例

40歳台、男性。数年前から年に2～3カ月頭痛が起こる。頭痛は、朝、発症し、右眼の奥の激しい痛みで仕事に行けないことがある。NSAIDsを内服しても効果なく、近医で酒石酸エルゴタミン配合製剤を処方され、群発頭痛と診断された。内服治療で少し改善したが、神経ブロックや漢方治療を希望し、当科を受診した。体格は良く、便秘がある。脈は沈実。舌は白苔あり。腹力は強く、胸脇苦満があった。星状神経節ブロック（SGB）を行い、大柴胡湯を処方した。2週間後、再来したが、発作は治まり便秘も改善していた。その後、大柴胡湯を継続し、経過中、頭痛発作は再発しなかった。

② 症例2：釣藤散処方の自験例

50歳台、女性。本態性高血圧を指摘され、降圧薬を内服している。血圧の高い時にはいつも後頭部に一日中鈍い頭痛が続き、肩こりもある。吐き気はない。NSAIDsを内服していたが、漢方治療を希望し来院した。腹部に軽い心下痞鞭を認める。高血圧に伴う頭痛を目標に釣藤散を処方した。2週間後に来院した時には、頭痛は改善し、肩こりも良くなっていた。

③ 症例3：香蘇散処方の自験例⁵⁾

60歳台、女性。若い時から、肩こりがひどく非拍動性で両側性の頭痛があった。初診時、ほぼ毎日、市販の頭痛薬を服用していた。中肉中背で、声に張りが無い。舌は、黄色苔。脈は沈虚。腹診では、腹力中程度、心下痞鞭が認められた。香蘇散を処方し、4週間後、毎日服用していた頭痛薬はあまり使わなくなった。8週間後、ズキズキする頭痛があったが、月2～3回頭痛薬を内服するだけで、症状はほぼ消失し、現在も香蘇散の内服を継続している⁵⁾。

④ 症例4：呉茱萸湯処方の自験例⁶⁾

30歳台、女性。小児期から頭痛があり、市販薬を内服していた。妊娠を契機に頭痛が悪化し、悪心・嘔吐を伴う片頭痛と診断された。消炎鎮痛薬、抗うつ薬、抗痙攣薬、抗精神薬を内服したが改善せず、薬剤性腎機能障害も併発した。薬の減量目的で当科紹介となった。手足は冷たく、腹壁は柔らかく、著明な心下痞鞭があった。神経ブロックに加え、呉茱萸湯を処方し、1週間ほどで頭痛は徐々に改善され、発作の回数も減少し、西洋薬の投与回数も減少し、それにより腎機能は徐々に改善した⁶⁾。

2) 腰下肢痛・坐骨神経痛

一般に腰下肢痛や坐骨神経痛の原因としては、椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、腰椎分離・すべり症、骨粗鬆症、術後腰下肢痛、腫瘍、いわゆる腰痛症がある。手術やブロック治療が必要な症例に漢方のみで治療することは難

表2 腰下肢痛・坐骨神経痛に用いる漢方処方の特徴

漢方処方	症例の証・東洋医学的診察	適 応	症例
高齢者の腰痛や坐骨神経痛			
①八味地黄丸	脈は沈。舌は湿って淡白、時に無苔(鏡面舌)。腹診では少腹不仁、少腹拘急(腹直筋の下方が緊張)がある。	腎虚の代表的漢方薬。疲労、倦怠感が著しく、腰痛や下肢の強い冷えがある。時に足の裏や体のほてりがあり、下肢の浮腫も認められる。多尿、夜間頻尿など小便の異常にも効果がある。	症例5
②牛車腎気丸	八味地黄丸の証で浮腫傾向があり、しびれの強い者。	八味地黄丸に牛膝と車前子を加えたもの。下肢のむくみ・しびれ。小便の異常が著しい者に効果がある。	
③桂枝加朮附湯	脈は沈で舌は明らかな変化はない。腹診では腹力は軟弱で、腹直筋が緊張していること、臍上方に軽い拍動を触れることがある。	四肢や体幹の神経痛、関節痛や手足のしびれ感があり、寒冷により増悪する。肩こり、筋肉痛、時に下痢がある。胃腸が虚弱な者に良い適応がある。	
比較若く人の腰痛や坐骨神経痛			
④桃核承気湯	実証の瘀血。脈は沈実、舌は乾燥し黄苔がある。腹診では腹部全体の緊張が強く、下腹部は硬満、左下腹部に著明な圧痛点(小腹急結)がある。	実証の瘀血に対する漢方薬である。顔色は赤黒く、のぼせと瘀血症状が強い。頭痛、めまい、耳鳴り、肩こり、腰痛、便秘、足の冷えなどがあり、月経不順、月経困難症などに効果がある。	
⑤桂枝茯苓丸	(頭痛の項参照)	(頭痛の項参照)	
⑥五積散	脈は浮弦もしくは沈遅。腹診は腹力やや軟弱で軽い心下痞を認め、下腹部に撃急を認めることがある。	上半身の熱感、下半身の冷えがあり、貧血と下痢傾向がある。慢性に経過し症状があまり激しくない腰痛、神経痛、関節痛、月経痛、頭痛、冷え性、更年期障害、胃腸炎、感冒などに効果がある。	
⑦疎経活血湯	瘀血、水毒、寒証。脈は沈細。舌は淡紅で湿潤無苔あるいは、微白苔がある。腹診で腹壁はやや軟で、下腹部はやや緊張し時に抵抗や圧痛がある。	瘀血があり夜に痛みが強い。特に下半身の関節痛、神経痛、筋肉痛に効果がある。	症例6
⑧当帰四逆加呉茱萸生姜湯	(頭痛の項参照)	(頭痛の項参照)	
⑨補中益気湯	脈は浮弱で大。舌は薄い白苔。唾液が多い。腹壁は軟弱。軽い胸脇苦満あり、臍の上に動悸がある。	名前のお通り、胃を補い、元気を益す漢方薬。倦怠感が強い人。眼力がなく、食欲不振、四肢倦怠感、病後の体力増強、感冒、多汗症などに効果がある。	
ぎっくり腰・こむらえり			
⑩芍薬甘草湯	脈は弦遅、舌は湿潤、時に薄い白苔を見る。腹診では両腹直筋の緊張が認められる。	ぎっくり腰、こむら返りなど、横紋筋や平滑筋の異常な緊張や痛みにも効果がある。高齢者の腰痛で、消化器病変などで、NSAIDsが服用できない場合には第一選択としてよい。	

画像診断で異常はなかった。舌診で歯痕があり、舌は紅紫色。腹力は強く、左下腹部に圧痛点があり、瘀血と考えた。ブロック治療に加え、桂枝茯苓丸を投与したが改善しなかった。芍薬甘草湯は腰痛が悪化した時、頓服用として効果があった。疎経活血湯に転方したところ、腰痛は改善し、それまで月に6~8回来院してブロックを受けていたが、月2回程度の来院となった。

3) 膝関節痛



膝関節痛の原因は、変形性膝関節症、関節リウマチ、棚障害、半月板損傷など様々である。

このうち漢方薬の良い適応となるのは変形性膝関節症である。膝関節症に効果がある漢方薬には、越婢加朮湯、桂枝茯苓丸、薏苡仁湯、防己黄耆湯、桂枝加朮附湯、八味地黄丸、大防風湯があり、その証や適応を表3に示した。以下に代表的な処方例を紹介する。

① 症例7：越婢加朮湯の処方例⁷⁾

40歳台、女性。左膝関節の疼痛を主訴として来院した。月経は異常なく、大便は1日1行。尿はやや頻尿。舌には白苔がある。膝関節が腫れて、痛みは、歩行時はもちろん、五分間以上座っていると、痛みには耐えられなくなるという。

表3 膝関節痛に用いる漢方処方の特徴

	漢方処方	症例の証・東洋医学的診察	適 応	症例
実   虚	①越婢加朮湯	熱証。脈は浮滑、舌は淡紅、白苔あり。腹診では腹部の緊張は良好である。	胃腸が丈夫な熱証の標準的な処方。口渴、汗が出て、下肢の浮腫、多尿、頻尿などの尿の異常がある。下肢の腫れやそれに伴う痛みなど、局所に活動性の炎症があれば良い適応になる。	症例7
	②桂枝茯苓丸	(腰痛の項参照)	(腰痛の項参照)	
	③薏苡仁湯	虚実中間証。脈は滑で浮または弦。舌は乾湿中間。白苔を認める。特別な腹証はない。	関節の腫脹、熱感、四肢の疼痛に効果がある。	
	④防己黃耆湯	脈は浮、舌は湿潤で淡白、白苔あり。腹は軟弱で膨隆(蛙腹)している。	色白で筋肉が柔らかく、水太りの体質で疲れやすい。汗をかきやすく、乏尿があり、浮腫をきたし、膝関節が腫れて痛い、関節に水が溜まりやすく、夕方になると足が腫れる症状に効果がある。	症例8
	⑤桂枝加朮附湯	(腰痛の項参照)	(腰痛の項参照)	
	⑥八味地黄丸	(腰痛の項参照)	(腰痛の項参照)	
	⑦大防風湯	気血兩虚。脈は沈細で弱。舌は淡紅、腹は軟弱。	慢性に経過して、栄養状態が低下し、身体が衰えて下肢の運動障害を発症した者。貧血、関節痛、筋肉痛、下半身麻痺、歩行障害、膝関節の変形(鶴膝風)がある者。下肢の関節リウマチ、慢性関節炎、痛風などに効果がある。	

患部を触診すると、拇指頭大の塊状のものがあって、これを圧すると痛む。越婢加朮湯を投与したが、15日間の服用で、塊状のものが消失して、疼痛も拭ったようになくなった⁷⁾。

② 症例8：防己黃耆湯の処方例⁸⁾

60歳台、女性。50歳頃より両膝関節痛を自覚するようになった。55歳頃、正座をしづらくなり、夜間の膝痛も出現したため、整形外科を受診し、変形性膝関節痛と診断された。息切れと両膝関節痛が出現したため来院した。身長154cm、体重54kg。首から上に発汗がある。下肢は冷えている。朝方に締めつけられるような頭痛がある。舌は腫大し、脈は弦、弱。腹力はやや軟弱で膨隆し、いわゆる水太りの状態である。膝関節は変形し、関節液が少量貯留してわずかに熱感がある。胸部X線画像ではCTRが57%と拡大している。膝関節の腫脹と心肥大を水滞の病態と考え、防己黃耆湯を投与した。2週間後には体重は1.5kg減少し、膝関節痛、息切れは2割ほど改善し、約4カ月後には全身倦怠感、頭痛、質関節痛、息切れは全く消失した⁸⁾。

4) 帯状疱疹関連痛

帯状疱疹の急性期の痛みのピークは発症後2週間前後といわれている。急性期は痛みと患部の炎症、浮腫に対して、漢方薬が投与される。また、発疹が治癒した後も続く帯状疱疹後神経痛は高齢者に多く、慢性化しやすいので、漢方薬が良い適応となる。帯状疱疹関連痛に効果がある漢方薬には、急性期では五苓散、黄連解毒湯、越婢加朮湯、桃核承気湯、慢性期では桂枝加朮附湯、麻黄附子細辛湯、補中益気湯、十全大補湯、疎経活血湯、加工附子末があり、その証や適応を表4に示した。以下に代表的な処方例を紹介する。

① 症例9：桂枝加朮附湯処方自験例

80歳台、女性。半年前に三叉神経第1枝領域に帯状疱疹を発症。近医皮膚科を受診し、抗ウイルス薬とNSAIDsを投与された。皮疹が消失しても痛みが良くなり、ペインクリニックを受診した。高齢であり、ブロック治療を望まなかったため漢方治療を選択した。手足の冷えがあり、寒虚で舌診は薄い白苔。腹力は弱く、臍上悸があった。桂枝加朮附湯を投与したところ、2週間後に痛みは改善していた。

表4 帯状疱疹関連痛に用いる漢方処方の特徴

漢方処方	症例の証・東洋医学的診察	適 応	症 例
a. 急性期（水疱期）			
① 五苓散	(頭痛の項参照)	(頭痛の項参照) 特に三叉神経領域	
② 黄連解毒湯	脈は数または滑数。舌は紅、黄苔あり。腹壁の緊張は中等度。心下痞あり。	体力があり赤ら顔、のぼせ症があり、気分がイライラして落ち着かず、胃や胸の辺りにモヤモヤとしたつかえがある。不眠、高血圧、鼻血、皮膚掻痒症、充血性炎症が強い時に効果がある。	
③ 越婢加朮湯	(膝関節痛の項参照)	(膝関節痛の項参照) 局所の腫脹、疼痛、熱感	
④ 桃核承気湯	(腰痛の項参照)	(腰痛の項参照) 発赤が強い時	
b. 慢性期（帯状疱疹後神経痛）			
① 桂枝加朮附湯	(腰痛の項参照)	(腰痛の項参照) 第一選択薬、胃腸虚弱の者	症例 9
② 麻黄附子細辛湯	脈は沈細、舌は淡泊、白苔がある。腹はやや軟。	微熱、全身倦怠、頭痛、めまい、四肢の疼痛冷感に適応がある。冷えると痛む、温まると痛みが改善する者に効果がある。	症例 10
③ 補中益気湯	(腰痛の項参照)	(腰痛の項参照) 全身倦怠感、易疲労感がある者	
④ 十全大補湯	脈は沈細または微弱。舌は湿潤、微白苔または無苔。腹壁は全体に軟弱無力でわずかに心下痞あり、時に臍上悸を触れることがある。	気血両虚があり、顔色が悪く、虚弱でるいそうがあり、皮膚が枯渇している。全身倦怠感、易疲労感、病後の体力低下、疲労倦怠、食欲不振、寝汗、手足の冷え、貧血に効果がある。	
⑤ 疎経活血湯	(腰痛の項参照)	(腰痛の項参照) 帯状疱疹後の痛みが続く場合。特に坐骨神経領域	
⑥ 加工附子末		単独では使用できず、漢方処方の調剤に用いる。四肢・体幹の冷えや痛みにも効果がある。附子は体を温める作用や内因性オピオイドであるダイノルフィンの遊離を促進することによる鎮痛作用を有する。体力の充実している患者、熱証、のぼせが強い患者には慎重投与。心悸亢進、のぼせ、舌のしびれ、悪心などの副作用があるので注意する。	

② 症例 10：麻黄附子細辛湯処方の処方例⁹⁾

80歳台、男性。腕神経叢領域に帯状疱疹を発症した。抗ウイルス薬、三環系抗うつ薬の内服を開始した。皮疹は治まったが、皮疹発現14日目に同部に激痛が出現し、硬膜外ブロック治療を開始した。睡眠や摂食もままならず、高齢であったため、次第に衰弱していった。患者は昼間から毛布をかぶって寝たきりとなり、痛みが楽になるといって、患部にはタオルによる温浴を欠かさなかった。麻黄附子細辛湯を開始したところ、患者は翌日からベッドから起き上がり、介助されながらであったが、自力で歩行した。疼痛はほとんどなくなり、久しぶりに熟眠できた⁹⁾。

5) 疼痛性障害

疼痛性障害は身体表現性障害の一種であり¹⁰⁾、疼痛の程度に見合う疾患が認められず、心理的要因により疼痛の悪化を認めるという特徴がある^{11,12)}。原因は不明で、ストレスや不安などが身体症状へと現れていると考えられている。治療には薬物療法と認知行動療法などの精神療法が推奨されているが¹³⁾、漢方薬は依存や乱用が少ないため、積極的に用いるべき治療法である。疼痛性障害に効果がある漢方薬には、柴胡加竜骨牡蠣湯、大柴胡湯、四逆散、柴胡桂枝乾姜湯、抑肝散、抑肝散加陳皮半夏、半夏厚朴湯、香蘇散、加味逍遙散があり、その証や適応を表5に示した。以下に代表的な処方例を紹介する。

表5 疼痛性障害に用いる漢方処方の特徴

漢方処方	症例の証・東洋医学的診察	適応	症例
① 柴胡加竜骨牡蠣湯	脈は数，弦，舌は淡紅，白苔，腹力は中程度，弾力のある腹壁，胸脇苦満，心下痞，臍上悸がある。	心悸亢進，不眠，いらだち等の精神症状のあるもの，抑うつ，不安，高血圧，動脈硬化症，神経症，てんかん，ヒステリーなどに効果がある。	症例 11
② 大柴胡湯	(頭痛の項参照)	(頭痛の項参照)	
③ 四逆散	脈は沈緊または弦遅，舌は淡紅，薄い白苔あり，腹力は中程度，両側の胸脇苦満と心下痞，腹直筋が硬く触れる（腹皮拘急）。	イライラ，抑うつ，不眠，四肢の冷感があるもの，胆のう炎，胃炎，神経質，ヒステリーに効果がある。	
④ 柴胡桂枝乾姜湯	柴胡加竜骨牡蠣湯証の虚証。脈は弦細，舌は淡紅，薄い白苔をみる，腹壁は薄く軟弱で，胸脇苦満と心下痞，腹直筋の緊張，臍上悸を認める。	寝汗，冷え，肩こり，動悸，息切れを認め，更年期障害，神経症，不眠症などに効果がある。	
⑤ 抑肝散	脈は弦，舌は紅で白苔をみる，腹は軟で，心下痞，左腹直筋上半分が緊張している。	肝気が昂ぶって興奮するものを抑える漢方薬。胸のモヤモヤ（胸煩），イライラ，興奮，神経過敏，眼瞼痙攣などが認められる。抑肝散はもともと小児の夜泣き，疳症の薬で，神経症，不眠症にも効果がある。	症例 12
⑥ 抑肝散加陳皮半夏	抑肝散の証が慢性化したものと考える。	抑肝散に陳皮と半夏を加えた漢方である。これにより胃内停水をなくし，肝の熱を冷やす。	
⑦ 半夏厚朴湯	脈は沈弦で時に滑，舌は湿潤，膨大，辺縁に齒痕を認め，舌苔は白く厚い，腹は全体に軟らかい感じがあり軽い心下痞を認める。	代表的な気の巡りを改善する漢方薬。気分がふさいで咽喉，食道部に異物感（咽中炙鬱または梅核気）があり，時に動悸，めまい，吐気などを伴う。不安神経症，神経性胃炎，つわり，不眠症などに効果がある。	
⑧ 香蘇散	(頭痛の項参照)	(頭痛の項参照)	
⑨ 加味逍遙散	脈は沈弦または弱，舌は薄い白苔，腹は全体に軟弱で胸脇苦満があり，時に左下腹部に軽い抵抗圧痛がある（瘀血）。	心氣的傾向の不安愁訴，不眠，イライラ，疲れやすく，肩こりがある。精神不安などの精神神経症状，便秘，冷え症，月経困難，更年期障害などに効果がある。	

① 症例 11：柴胡加竜骨牡蠣湯の自験例¹⁴⁾

7年前から誘因なしに顔面（両側鼻翼から頬部）のビリビリする感覚が出現した。耳鼻科を受診し，異常なしといわれた。近医ペインクリニック外来を受診し，知覚検査，血液検査を行ったが異常はなかった。SGBを2回受けたが，効果なく中止した。その後，当科を受診した。脈は浮，舌は紅色で白苔があり，歯列痕もあった。腹力は中程度であった。実熱証と診断し，SGBを再開し，柴胡加竜骨牡蠣湯を開始した。この漢方は良く効くと話され，経過は良好でSGBを行わないで痛みはコントロールできている¹⁴⁾。

① 症例 12：抑肝散の処方例¹⁵⁾

40歳台，女性。4カ月前より両側下腿と両側前腕の疼痛とこわばりが出現。近医の整形外科や大学病院を受診し，精査したが異常はな

かった。NSAIDs，芍薬甘草湯を処方されたが，無効であった。疼痛性障害と診断し，桂枝加朮附湯を投与したが，6週間後も症状改善を認めなかった。焦燥感が強く，腹診より抑肝散が良いと考え，投与を開始した。4週間後には両側の下腿と前腕の疼痛やこわばりがかなり軽快した¹⁵⁾。

おわりに

ペインクリニックで漢方薬を処方する時に知っておくべき東洋医学的考え方とペインクリニックの対象疾患の中で，漢方薬が良い適応となる疾患を取り上げ，それぞれの疾患に対し漢方薬の選択方法と症例を紹介しながら解説した。

漢方薬はブロック治療や西洋薬で改善しない

痛みに対して、時に劇的な効果を現わし、患者の福音となりうる。幸いなことに本邦では漢方薬には保険適応がある。多くのペインクリニックが基本的な漢方薬の処方を習得し、臨床で活用することを期待してやまない。

文 献

- 1) 世良田和幸：ペインクリニック領域と漢方医学。東京，株式会社ツムラ，2009，2-11
- 2) 世良田和幸：痛みの漢方治療。麻酔科学レクチャー 2：677-682，2010
- 3) 高久史麿，北村 聖：実地医家のための漢方医学入門。東京，恒陽社，2007，102-103
- 4) 丸山哲弘：片頭痛予防における呉茱萸湯の有用性に関する研究－塩酸ロメリジンとのオープン・クロスオーバー試験－。痛みと漢方 16：30-39，2006
- 5) 及川隆司，間宮敬子，本間裕子，他：香蘇散が奏効した頭痛の3例。ペインクリニック 33：1459-1461，2012
- 6) 間宮敬子，櫻井行一，高畑治他：非ステロイド性消炎鎮痛薬長期内服による腎不全を伴う片頭痛に漢方薬が奏効した症例。ペインクリニック 22：263-265，2001
- 7) 大塚敬節：漢方診療 30 年：治験例を主とした治療の実際。東京，創元社，124，2005
- 8) 寺澤捷年：症例から学ぶ和漢診療学第 3 版。東京，医学書院 2012，65-66
- 9) 平田道彦：麻黄附子細辛湯が奏効した帯状疱疹後神経痛の 1 症例。痛みと漢方 12：48-50，2002
- 10) American Psychiatric Association: Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, 4th ed. Text Revision (DSM IV-TR). Washington DC, American psychiatric Press, 2000
- 11) 山田和男：精神科領域での疼痛と漢方の投与方法。痛みと臨床 5：73-78，2005
- 12) 佐藤 武：身体表現性障害。ペインクリニック 24：837-843，2003
- 13) 山田和男：身体表現性障害（疼痛性障害）の診断と治療。臨床精神薬理 10：213-218，2007
- 14) 間宮敬子，高階 隼，小野寺美子，他：身体表現性障害患者に対する漢方治療。痛みと漢方 22：77-80，2012
- 15) 山田和男：疼痛性障害に対する抑肝散の使用経験。日本東洋医学学会誌 54：362-363，2003

※ ※ ※